

## 新たな流域別下水道整備総合計画のあり方

# 新たな流域別下水道整備総合計画のあり方に向けて検討を要する事項

## 新しい水環境のニーズ

### 豊かな海・生物多様性

- 事業計画の計画放流水質に上限値が設定されてことなどにより、流総計画の計画処理水質を満足する範囲内で最大限柔軟な運転管理に制約がある。

→ 栄養塩類の能動的運転管理に関する制度面での新たな対応

- ・ 制度面での新たな対応について、今後、通知の発出等を行う

## 社会情勢の変化

### 人口減少

- 人口減少に伴い下水負荷が低下する中、処理方式の適切な見直しが必要だが、現状は流総計画の将来人口の想定年度に水質環境基準を達成したことを確認しなければ、更新できない。

→ 計画期間途中の計画処理水質を算定し、負荷量の動向に応じた合理的な施設更新の考え方を提示

- ・ 今後、流総計画へどのように反映するか議論し、流総指針の改定に反映

### 脱炭素

- エネルギー等の全体最適に基づき、温室効果ガス排出を最小化することが求められている。

→ 地域特性や処理規模に応じた最適な施設配置の考え方を提示

- ・ 今後、水質とエネルギーを考慮した水質管理のあり方について検討を深め、流総指針の改定に反映

## 今後、さらなる検討が必要な項目

- 流総計画策定における手続きの簡素化について
- 地域のニーズに対応するため住民等への意見聴取を含めた合意形成のあり方について
- 他計画（都道府県構想、広域化・共同化計画）との連携や役割分担の整理する

## その他、検討が望まれる項目

- 汚濁解析モデルの高度化、簡素化へのニーズ、関係省庁とのモデルとの整合
- 新たに環境基準に追加・変更された水質項目（大腸菌数、底層DO）への対応